

シラバス例

北 和丈（富山県氷見市）

科目：英語講読（通年必修、90分授業、履修者最大50名程度を想定）

題目：伝えるための英語講読演習

目的：本授業は、日本語・英語の両言語に精通した15人の語学教師による英文エッセイを素材として翻訳・音読・英作文などの作業を行い、以下の各技能の向上を目指すものである。

- (1) 本文の英語の内容を咀嚼し、適切な日本語で表現する技能
- (2) 内容が聴き手に伝わるように英語を音読する技能
- (3) 自分の体験や考えが読み手に伝わるように英語を書く技能

授業計画：2回の授業で1章を扱う。

- (1) 各章に入る前に、受講者は宿題として英文の分担翻訳を行う（段落ごとに切るなど、できる限り内容にまとまりがある形で、3つまたは4つの部分に分けることが望ましい）。受講者は各自の担当した日本語訳を email または授業支援システムなどによって事前に提出し、教師はその訳を授業で比較検討できるよう匿名で掲載した教材を作っておく。

【注1】教室が大きい場合や受講者が多い場合は、印刷教材を用いずに PowerPoint スライドなどで提示できるようにしておけば、ある程度の手間が省ける。

【注2】受講者が非常に多く、各部分に対し担当者が10人を超えるような場合には、優秀作品を部分ごとに4つ程度厳選して匿名で掲載することが望ましい。

- (2) 1回目の授業は英語の内容を日本語を介して咀嚼するための時間である。受講者は3~4人ずつのグループに分かれて上述の翻訳課題で提出された訳を比較検討し、部分ごとに優秀作品を投票などによって選びだす。教師はその結果を踏まえつつ、優れた部分については評価を、誤りと思われる部分については代案を提示しながら解説する。

- (3) 2回目の授業は1回目の復習（Comprehension Questions、単語テストなど）を行った上で、残りの時間はできる限り英語を英語として味わうための活動に用いたい。各章によって持ち味が異なるが、ほとんどの章は音声や修辭法の面で工夫が凝らされているので、その特徴を模範として受講者自身が英語を発するよう促すことは可能である。

シラバス[前期分のみ※1]：

回	授業内活動	次回に向けた宿題 + 教師の作業
1	導入 ・ 授業の趣旨・進行法・成績評価等について説明 ・ 次回の課題について説明	学生：Ch. 1 分担翻訳 (email または授業支援システムで提出) 教師：提出された日本語訳を次の授業で比較検討できるよう教材作成
2	Ch. 1 日本語訳検討会	学生：翌週の単語テスト等に備えて勉強
3	Ch. 1 復習 ・ Comprehension Questions (15 分) ・ 単語テスト 10 題(5 分) Ch. 1 発展学習 ・ 語強勢・文強勢等の解説 ・ 強勢位置の聞き取り ・ 音読練習 ・ 音読コンテスト	学生：Ch. 2 分担翻訳 (email または授業支援システムで提出) 教師：提出された日本語訳を次の授業で比較検討できるよう教材作成※2
略		
13	Ch. 6 復習 ・ Comprehension Questions (20 分) ・ 単語テスト 10 題(5 分) Ch. 6 発展学習※3	
14	前期末試験	
15	前期末試験解説・前期総括	

※1：後期についても同様に進行する。

※2：「発展学習」で英作文を行う場合、教師は翌週までに添削を行った上で、次回授業の最初にその講評を与えるための準備も行う。

※3：このシラバスに従えば、通年で扱えるのは12章分ということになる。各学校の地域性や受講者の興味・関心に応じて取捨選択することになる。

授業案[1回目] (Ch. 8 を例に)

授業内活動	時間	活動・指導内容
事務連絡	5分	日本語訳検討のため、3～4人ずつのグループ分けを指示する。
第1段落日本語訳検討	8分	受講者は第1段落の日本語訳（案）4つ程度を比較検討し、各グループ1つずつ優秀作品を選び出す。
検討結果確認・解説	8分	各グループの優秀作品・選出理由等を確認。その結果を踏まえて、講評・解説を行う。
第2段落日本語訳検討	8分	受講者は第2段落の日本語訳（案）4つ程度を比較検討し、各グループ1つずつ優秀作品を選び出す。
検討結果確認・解説	8分	各グループの優秀作品・選出理由等を確認。その結果を踏まえて、講評・解説を行う。
第3段落日本語訳検討	8分	受講者は第3段落の日本語訳（案）4つ程度を比較検討し、各グループ1つずつ優秀作品を選び出す。
検討結果確認・解説	8分	各グループの優秀作品・選出理由等を確認。その結果を踏まえて、講評・解説を行う。
第4段落日本語訳検討	8分	受講者は第4段落の日本語訳（案）4つ程度を比較検討し、各グループ1つずつ優秀作品を選び出す。
検討結果確認・解説	8分	各グループの優秀作品・選出理由等を確認。その結果を踏まえて、講評・解説を行う。
第5・6段落日本語訳検討	8分	受講者は第5・6段落の日本語訳（案）4つ程度を比較検討し、各グループ1つずつ優秀作品を選び出す。
検討結果確認・解説	8分	各グループの優秀作品・選出理由等を確認。その結果を踏まえて、講評・解説を行う。
総括・次回の授業に向けた連絡	5分	

授業案[2回目] (Ch. 8 を例に)

授業内活動	時間	活動・指導内容
-------	----	---------

事務連絡	5分	
Comprehension Questions	15分	指名(パソコンを使用している場合は無作為抽出が可能な抽選ソフトを使用)して、解答とその根拠を確認する。
単語テスト	5分	p. 43 の Vocabulary Check の 10 語を、本文の空欄穴埋めによってテストする(別解の有無も適宜確認する)。
英作文準備作業	25分	(1) 本文を手本として、「対比」を軸とした英作文を行うことを予告する。 (2) 日本の「表/裏」がどのように形容されているのかを表などにまとめた上で、自分の英作文に拝借できそうな英語表現を列挙させる(状況に応じて、事前にワークシートなどを自作しておくことが望ましい)。
グループ英作文作業	40分	(1) 3~4人ずつのグループ分けを指示する。 (2) 各グループは、ある特定の、できるだけ学生と縁の深い事物(例:自分たちの大学)をほかのものと対比して表現した100語以上の英作文を行う。 (3) 次回、優秀作品を紹介することを予告する(数が少ないようであれば、日本語訳検討の場合と同様に、比較検討して優秀作品を選び出す形式を採っても構わない)。 (4) 完成したグループから退出してよいこと、時間内に完成しなかったグループはメールで指定期日までに提出することなどを指示しておく。